

## 第6節 美術

### 1 改訂のポイント

#### (1) 改善の趣旨及び要点について

- 感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る。
- 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

#### (2) 目標の改善について

※ゴシックは、図画工作科との違いを示している。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の <b>美術や美術文化</b> と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
知識及び技能	(1) <b>知識</b> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、 <b>技能</b> <u>表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</u>				
造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関するもの。					
思考力、判断力、表現力等	(2) <b>造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、</b> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>表現における思考力、判断力、表現力</td> <td><b>主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、</b></td> </tr> <tr> <td>鑑賞における思考力、判断力、表現力</td> <td><b>美術や美術文化</b>に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</td> </tr> </table>	表現における思考力、判断力、表現力	<b>主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、</b>	鑑賞における思考力、判断力、表現力	<b>美術や美術文化</b> に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
表現における思考力、判断力、表現力	<b>主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、</b>				
鑑賞における思考力、判断力、表現力	<b>美術や美術文化</b> に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。				
表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方に関するもの。					
学びに向かう力、人間性等	(3) <b>美術の創造活動の喜びを味わい、</b> <b>美術を愛好する心情</b> を育み、 <b>感性を豊かにし、</b> <b>心豊かな生活を創造していく態度を養い、</b> <b>豊かな情操を培う。</b>				
学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するもの。					

※ (1)、(2)、(3)を相互に関連させながら育成できるように整理された。

#### (3) 美術科における「造形的な見方・考え方」

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

#### (4) 学年の目標の改善について

※ゴシック体は、学年間の違いを示している。

	第1学年	第2学年及び第3学年
知識及び技能	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて <b>表現を工夫して表す</b> ことができるようにする。 <b>技能</b>	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて <b>自分の表現方法を追求し、創造的に表す</b> ことができるようにする。
造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関する目標を示している。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と <b>工夫</b> 、機能性と <b>美しさ</b> との調和、美術の働きなどについて <b>考え</b> 、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を <b>広げたり</b> することができるようにする。	(2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と <b>創造的な工夫</b> 、機能性と <b>洗練された美しさ</b> との調和、美術の働きなどについて <b>独創的・総合的に考え</b> 、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を <b>深めたり</b> することができるようにする。
表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方に関する目標を示している。		
学びに向かう力、人間性等	(3) <b>楽しく</b> 美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を <b>培い</b> 、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	(3) <b>主体的に</b> 美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を <b>深め</b> 、心豊かな生活を創造していく態度を養う。
学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性などに関する目標を示している。		

(5) 内容構成の改善について ※矢印の関係は、相互に関連させながら学習することで、鑑賞に関する資質・能力を高めることができるようにしている。

領域等	項目	事項		目標との関連	
		指導内容	指導事項		
領域	A 表現	(1) 発想や構想に関する資質・能力	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想	(ア) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想	「思考力、判断力、表現力等」
			イ 目的や条件などを考えた発想や構想	(ア) 構成や装飾を考えた発想や構想 (イ) 伝達を考えた発想や構想 (ウ) 用途や機能などを考えた発想や構想	
	(2) 技能に関する資質・能力	ア 発想や構想したことなどを基に表わす技能	(ア) 創意工夫して表す技能 (イ) 見通しをもって表す技能	「技能」	
	B 鑑賞	(1) 鑑賞に関する資質・能力	ア 美術作品などに関する鑑賞	(ア) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する鑑賞 (イ) 目的や機能などを考えた表現に関する鑑賞	「思考力、判断力、表現力等」
		イ 美術の働きや美術文化に関する鑑賞	(ア) 生活や社会を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞 (イ) 美術文化に関する鑑賞		
指導事項 〔共通事項〕	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して指導	ア 形や色彩などの性質や感情にもたらす効果の理解	イ 全体のイメージや作風などで捉えることの理解	「知識」	

- ・三つの柱に沿った資質・能力の整理をし、構成し直した。
- ・「学びに向かう力、人間性等」は、「A表現」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕を指導する中で、一体的、総合的に育てていくものである。

(改善の視点)

「A表現」領域の改善

- 「A表現」の内容を育成する資質・能力を一層明確にする観点から、「(1)表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。」「(2)表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。」とし、項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理された。
- 主体的で創造的な表現の学習を重視し、「A表現」(1)において、「ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」及び「イ 目的や機能などを考えた発想や構想」の全ての事項に「主題を生み出すこと」を位置付け、表現の学習において、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想をすることを重視するように改善された。

「B鑑賞」領域の改善

- 「B鑑賞」の内容を、アの「美術作品など」に関する事項と、イの「美術の働きや美術文化」に関する事項に分けて示した。アの「美術作品など」に関する事項では、「A表現」の絵や彫刻などの感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と、デザインや工芸などの目的や条件などを考えた表現との関連を図り、これら二つの視点から分けて示し、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて「思考力、判断力、表現力等」を育成することを重視した。イの「美術の働きや美術文化」に関する事項では、生活や社会と文化は密接に関わっていることや、社会に開かれた教育課程を推進する観点などから、従前の生活を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞と、美術文化に関する鑑賞を大きく一つにまとめた。

〔共通事項〕の改善

- 感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し、〔共通事項〕を造形的な視点を豊かにするために必要な知識として整理し、表現や鑑賞の学習に必要な資質・能力を育成する観点から改善を行った。

各学年の内容の取り扱いの新設

- 発達の特徴を考慮して、各学年において学習内容や題材に配する時間数を十分検討するとともに、「思考力、判断力、表現力等」を高めるために、言語活動の充実を図るようにした。

## 2 指導計画作成上の留意点

### (1) 指導計画作成上の配慮事項

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する事項
  - ・題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
  - ・必ずしも1単位時間の授業の中で、すべてが実現されるものではない。
- ② 「A表現」及び「B鑑賞」の関連に関する事項
  - ・特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする。
- ③ 〔共通事項〕の指導に関する事項
  - ・〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力である。
- ④ 「A表現」の(1)のア及びイと、(2)の関連に関する事項
  - ・描く活動とつくる活動のいずれも経験させる。ここでいう「描く活動」とは、平面状に描くことを主とするが、立体の表面に描くことも含まれる。また、「つくる活動」とは立体的な表現のことである。「描く活動」と「つくる活動」の双方を取り入れた表現も考えられるが、身に付けさせたい資質・能力を明確にすることが重要である。
- ⑤ 「B鑑賞」の指導についての授業時数に関する事項
  - ・鑑賞と表現との関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画を工夫する。その際生徒や各学校の実態、地域性などを生かした効果的な指導方法を工夫するための適切かつ十分な時数を確保する必要がある。
- ⑥ 障がいのある生徒などへの指導や支援に関する事項
  - ・美術科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替えを安易に行うことのないよう留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。
  - ・表現及び鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、一人ひとりの状況や発達の特性に配慮し、個に応じた学習を充実させることが求められる。
- ⑦ 道徳科などとの関連についての事項
  - ・目標の(3)にある美術の創造活動の喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、美術の創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

### (2) 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- ① 〔共通事項〕の指導に関する事項
  - ・生徒が〔共通事項〕のア（形や色彩、材料、光などの性質や、それが感情にもたらす効果などを理解すること）とイ（造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること）という造形を豊かに捉える多様な視点がもてるようにする。
- ② 「A表現」の指導に関する事項
  - ・生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにする。
- ③ 表現形式や技法などに関する事項
  - ・生徒一人ひとりが強く表したいことを、心の中に思い描くことができるようにし、自分の表現意図をしっかりともちながら、形や色彩、材料などで実現できるように指導する。全員が画一的な表現になることなく、様々な表現形式や技法、材料に触れさせる中で、生徒が自ら表現形式を選択し創意工夫する態度を培うようにする。
- ④ 他者と学び合うことに関する事項
  - ・「A表現」や「B鑑賞」を通じて他者と考えを交流させ互いに学び合うことを経験させる中で、互いの表現のよさや個性などを認め合い尊重し合う態度を育てるようにする。
- ⑤ 共同で行う創造活動を経験させることに関する事項
  - ・発想、構想、計画、制作から完成に至る過程での話し合いを重視し、学級全体あるいは小グループの活動などの中で互いの個性を生かした分担をして活動を行うようにし、単なる作業分担に終わってしまうことのないよう留意する。
- ⑥ 鑑賞の題材、美術館などの利用や連携に関する事項
  - ・美術館や博物館等と連携を図り、それらの施設や文化財等を積極的に活用する。
- ⑦ 創造性を大切にすることを養うことに関する事項
  - ・日々の指導の中で、生徒が創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。

### 3 Q&A

#### Q 1 【共通事項】のア・イ共に示されている「理解する」とはどのようなことですか。

【共通事項】のア・イは造形を豊かに捉えられるようにするために必要となる内容を示しており、これらは表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力です。「理解する」とは、単に知識が新たな事柄として知ることや言葉を暗記することだけに終始するのではなく、学んだ知識を活用しながら、生徒が自分の感じ方で形や色彩などを捉え、造形的な視点として生きて働く知識として実感を伴いながら理解し、身に付けていくことです。

#### Q 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に伴う配慮事項とは何ですか。

これまで美術科では、美術の創造活動を通して、自己の創出した主題や、自分の見方や感じ方を大切に、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習を重視してきました。「深い学び」の視点から学習活動の質を向上させるためには、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感し目的意識を高めるなどの「主体的な学び」の視点も大切です。さらに、自己との対話を深めることや、【共通事項】に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることなどの「対話的な学び」の視点が重要です。このような言語活動の充実を図ることで、お互いの見方や感じ方、考え方などが交友され、新しい見方に気付いたり、価値を生み出したりすることができるようになります。

このように表現と鑑賞を関連させながら、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を進めていくことで、造形的な見方・考え方が豊かになり、美術科において育成する資質・能力が一層深まっていくこととなります。

#### Q 3 鑑賞のための環境づくりにおいて、学校や地域の実態に応じて、校外においても生徒作品などの展示の機会を設けるようにするにはどのようなことですか。

地域で表現する場をつくることなどにより、学校と社会とをつないでいくことに取り組むことも重要です。特に美術科は、作品を介して教室内の人間関係だけにとどまらず、教職員や保護者、地域の人々などと連携ができる教科であり、身近なところから社会と関わる活動を進めていくことは、生徒の学びを深めていく上で効果的です。例えば、地域の施設やイベントなどに生徒作品を展示したり、校区内の小学校と双方の作品を貸し借りするなどして展示し合ったりすることで、新たな交流が生まれ、より多くの人との鑑賞の活動が可能となります。

#### Q 4 第2学年及第3学年「B鑑賞」(1)イ(イ)美術を通した国際理解とはどのようなことですか。

様々な国の美術作品や文化遺産などの鑑賞を通して、各国の美術や文化の違いと共通性を理解し、それらを価値あるものとして互いに尊重し合うことなどについて考えることです。これからの国際社会においては、様々な文化をもつ諸外国や民族との交流がこれまで以上に頻繁になり、自国の文化のよさを外に向かって発信する機会が多くなると考えられます。

例えば、「カナガワビエンナーレ国際児童画展」出品作品を活用することもできます。

2年に1度、世界87か国から約2万5千点の作品の応募があり、審査が行われ、入選作品は県内の巡回展後、「あーすぷらざ」（カナガワビエンナーレ国際児童画展事務局）に保管されています。また、選外の作品については、学校の要望があれば寄贈されます。

※問合わせ先 → 「あーすぷらざ」（カナガワビエンナーレ国際児童画展事務局）

<http://www.earthplaza.jp/biennial/>